

男里川水系河川整備計画 <参考資料> (素案)

目次

第1章 河川整備計画の目標に関する事項.....	-1-	第2章 河川整備の実施に関する事項.....	-43-
第1節 流域及び河川の概要.....	-1-	第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川 管理施設の機能の概要.....	-43-
1. 流域の概要.....	-1-	1. 洪水対策.....	-43-
2. 流域の特性.....	-2-	2. 河川環境の整備と保全.....	-44-
3. 河川の特性.....	-12-	第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	-44-
第2節 河川整備の現状と課題.....	-19-	1. 河川管理施設.....	-44-
1. 治水の現状と課題.....	-19-	2. 許可工作物.....	-44-
2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題.....	-24-	3. 河川空間の管理.....	-44-
第3節 流域の将来像.....	-26-	第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	-45-
第4節 河川整備計画の目標.....	-34-	第1節 地域や関係機関との連携に関する事項.....	-45-
1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標.....	-34-	第2節 河川情報の提供に関する事項.....	-46-
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標.....	-34-		
3. 河川環境の整備と保全に関する目標.....	-35-		
4. 河川整備計画の計画対象区間.....	-35-		
5. 河川整備計画の計画対象期間.....	-35-		
6. 本計画の適用.....	-35-		

平成28年10月

大阪府

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1.流域の概要

男里川水系は、男里川、金熊寺川、山中川、菟砥川の四河川からなる二級水系で、泉南市、阪南市を流れ、その流域は泉南市、阪南市、泉佐野市、和歌山市、岩出市、紀の川市に属しています。

男里川は、流域面積は約58.66km²、二級指定区間延長は約2.5kmで、和泉山脈に源を発し、大阪湾に注ぎます。

金熊寺川は、流域面積は約25.82km²、二級指定区間延長は約10.5kmで、男里川の河口から上流1.9km付近で右岸から合流します。

山中川は、流域面積は約19.54km²、二級指定区間延長は約2.5kmで、男里川の河口から上流2.4km付近の男里川上流端で右岸から合流します。

菟砥川は、流域面積は約12.51km²、二級指定区間延長は約1.5kmで、男里川の河口から上流2.4km付近の男里川上流端で左岸から合流します。

表-1.1 河川延長（管理区間）

水系名	河川名	指定区間延長	流域面積
男里川	男里川	2.5km	58.66km ²
	金熊寺川	10.5km	25.82km ²
	山中川	2.5km	19.54km ²
	菟砥川	1.5km	12.51km ²



図-1.1 男里川水系流域位置図

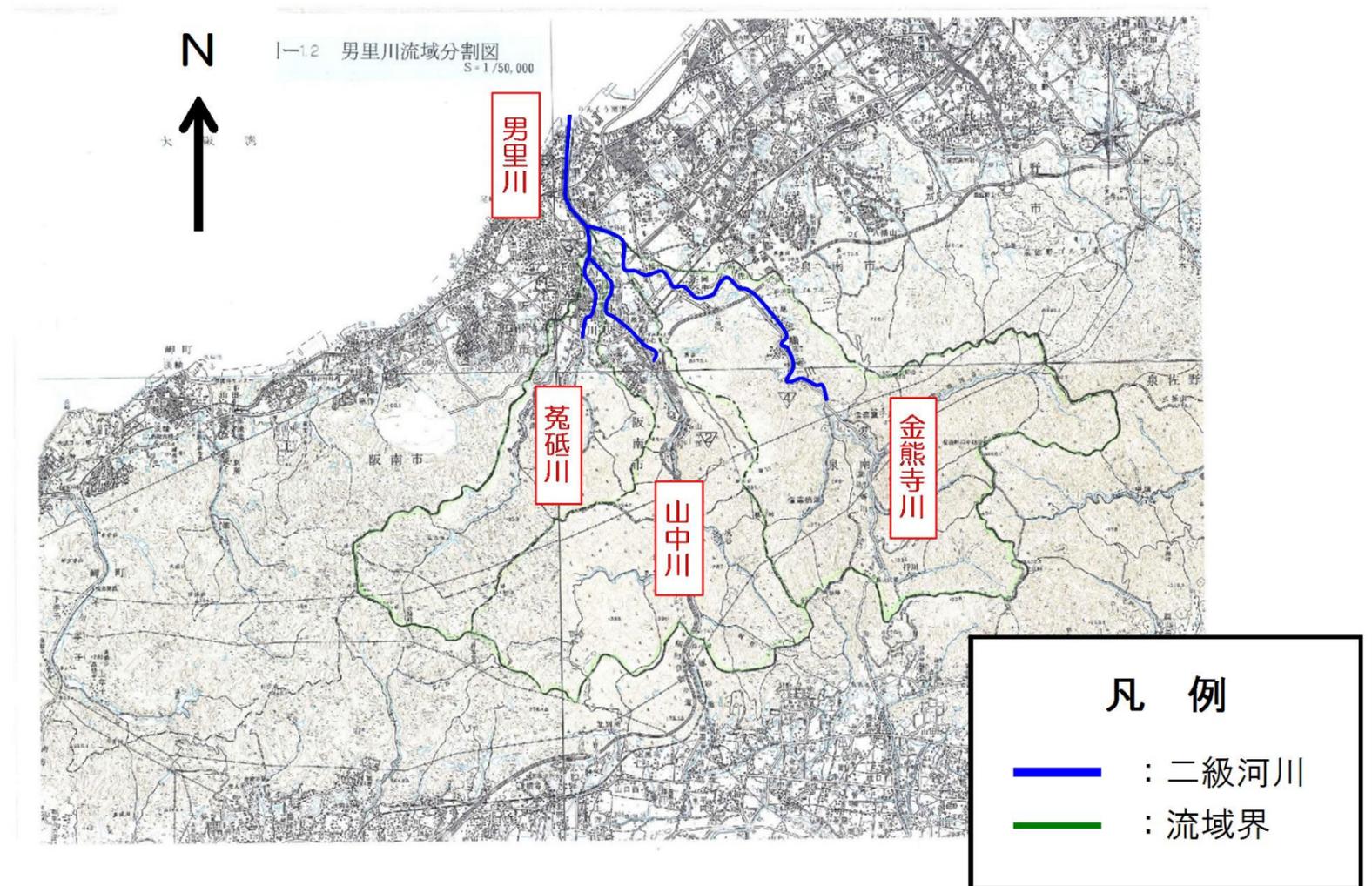


図-1.2 男里川水系流域図

2.流域の特性

(1) 自然環境特性

1) 地形・地質

男里川水系の地形は、上流域には和泉山脈があり、下流域には泉南台地が緩やかに広がり、金熊寺川合流点付近から、大阪湾沿岸の平地に続きます。標高は、流域界をなす山稜が 500～400m 程度、丘陵地が 300～100m、平地は 50～5m 程度となっています。

男里川水系の地質は、上・中流部が和泉層群、下流部は大阪層群から構成されています。

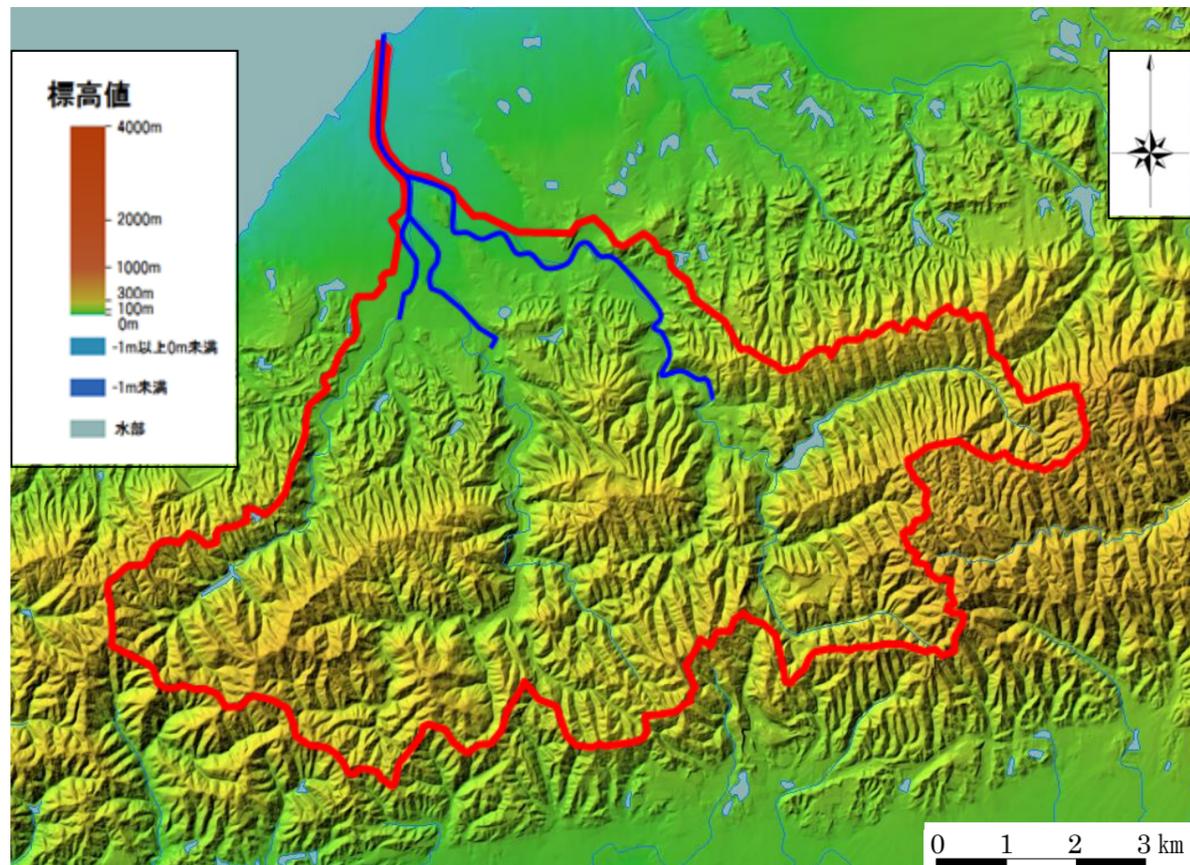


図-1.3 男里川流域周辺の地形図

出典：国土地理院

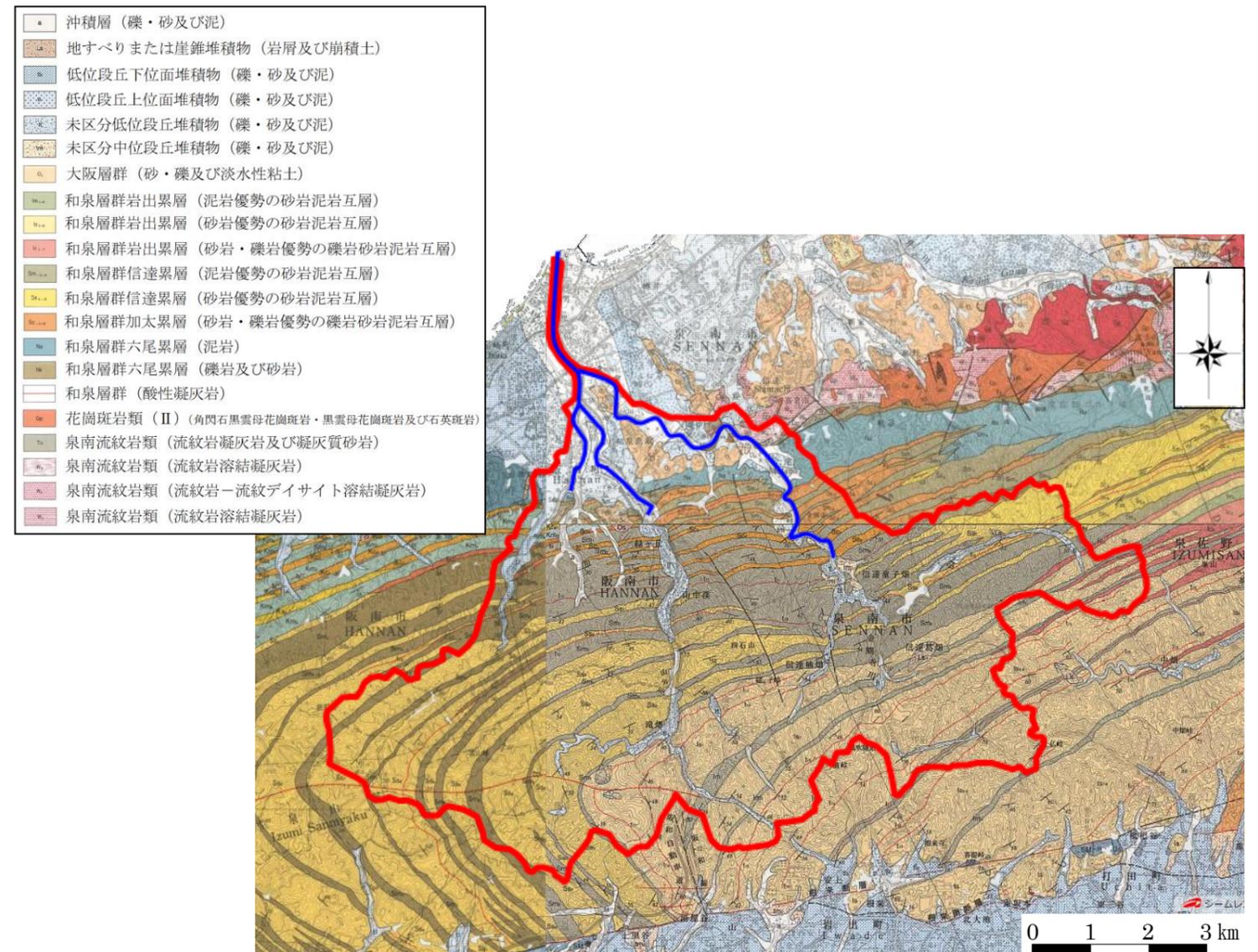


図-1.4 流域の地質図

出典：地質図 Navi (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター)

2) 気候

流域内の気候は、温暖で降水量の少ない「瀬戸内海式気候」に属し、近傍の大阪管区気象台熊取観測所における昭和56年から平成27年までの気象データによると、年平均気温は15.8℃と温暖で、年平均降水量は1,292mmとなっており、全国平均値1,700mmに比較して少ないという特徴があります。

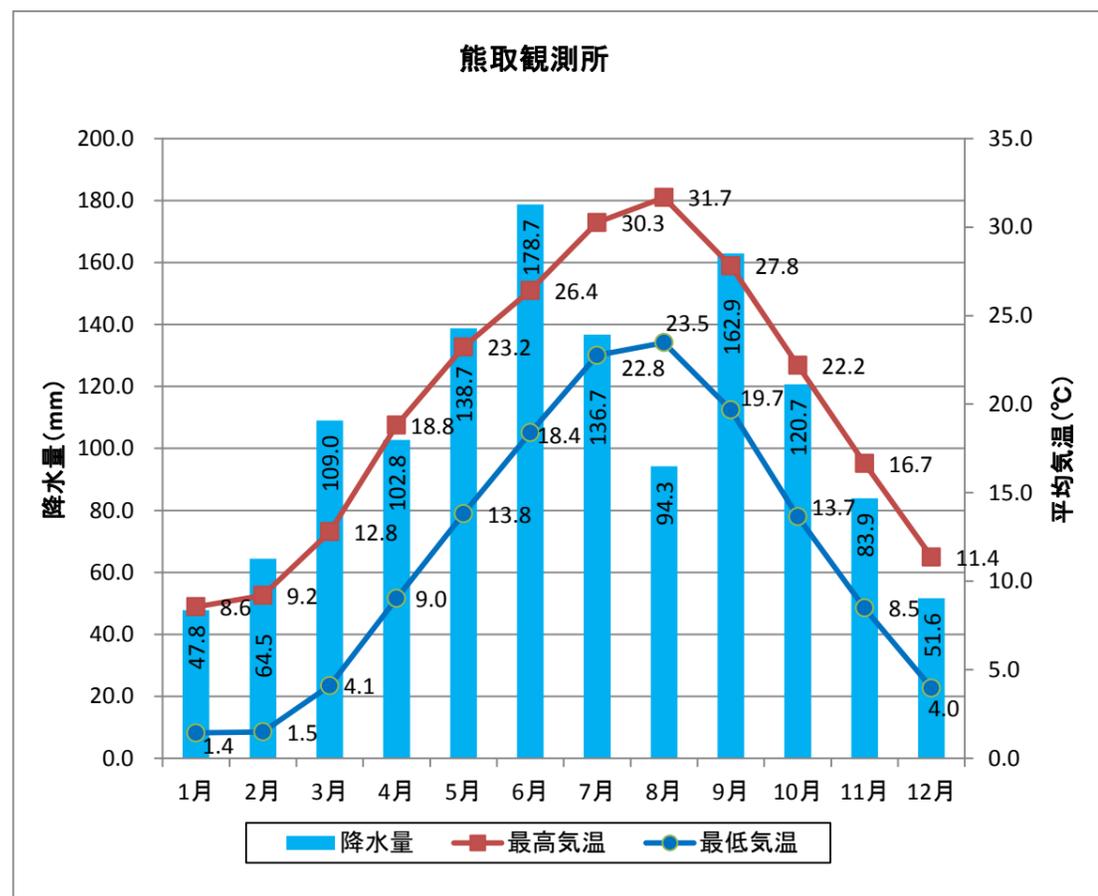


図-1.5 熊取観測所の気温と降水量（平年値）

出典：気象庁HP

3) 自然環境

①魚類

男里川水系での既往調査で、魚類は8科21種確認されており、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイトモロコ、ドジョウ、ミナミメダカや、準絶滅危惧に指定されているタモロコ、ナマズ等が確認される一方、外来生物法により特定外来生物に指定されているブルーギルやオオクチバスも確認されています。

表-1.2 男里川水系で確認された魚類

No.	目名	科名	和名	調査実施年度			重要種	外来種
				1997	2001	2011		
1	ウナギ	ウナギ	ウナギ	○				
2	コイ	コイ	コイ	○	○	○		
3			ギンブナ	○	○	○		
4			オイカワ	○	○	○		
5			カワムツ	○	○	○		
6			モツゴ		○	○		
7			タモロコ	○		○	大阪準絶	
8			カマツカ			○		
9			イトモロコ			○	大阪Ⅱ種	
10		ドジョウ	ドジョウ	○		○	大阪Ⅱ種	
11	ナマズ	ナマズ	ナマズ		○			
12	ダツ	メダカ	メダカ			○		
13	タウナギ	タウナギ	タウナギ(本土産)			○		国外
14	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○	○	○		特定
15			オオクチバス(ブラックバス)	○				特定
16		ハゼ	ドンコ		○			
17			マハゼ		○			
18			シマヨシノボリ	○				
19			トウヨシノボリ(型不明)	○		○		
20			カワヨシノボリ	○	○	○		
21			ヌマチチブ		○	○		
合計		6目8科21種		5科12種	4科11種	6科15種		

出典：平成23年調査：二級河川牛滝川外 河川水辺環境調査業務委託

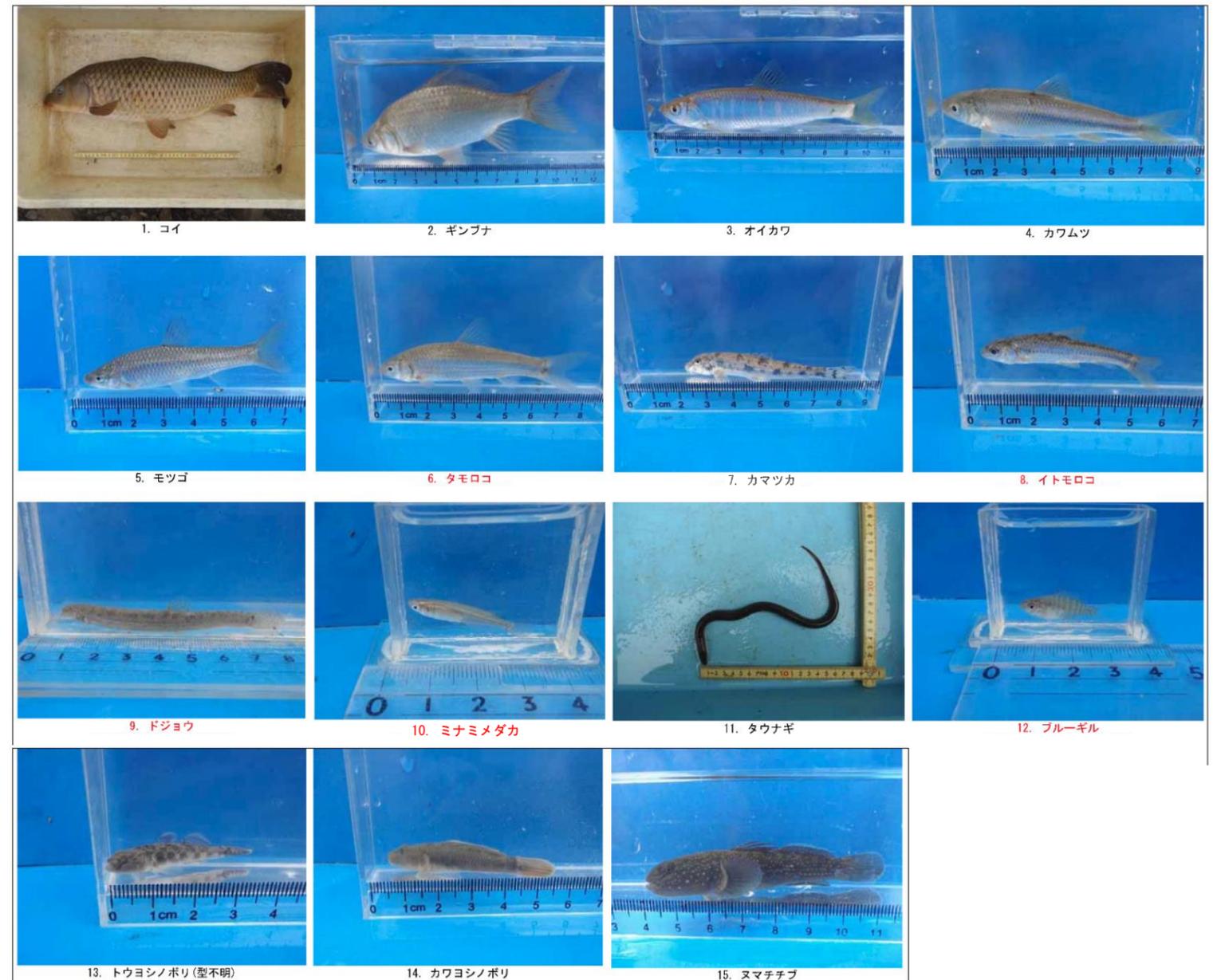


図-1.6 確認された主な魚類（赤字は重要種・外来種）

出典：平成23年調査：二級河川牛滝川外 河川水辺環境調査業務委託

②底生生物

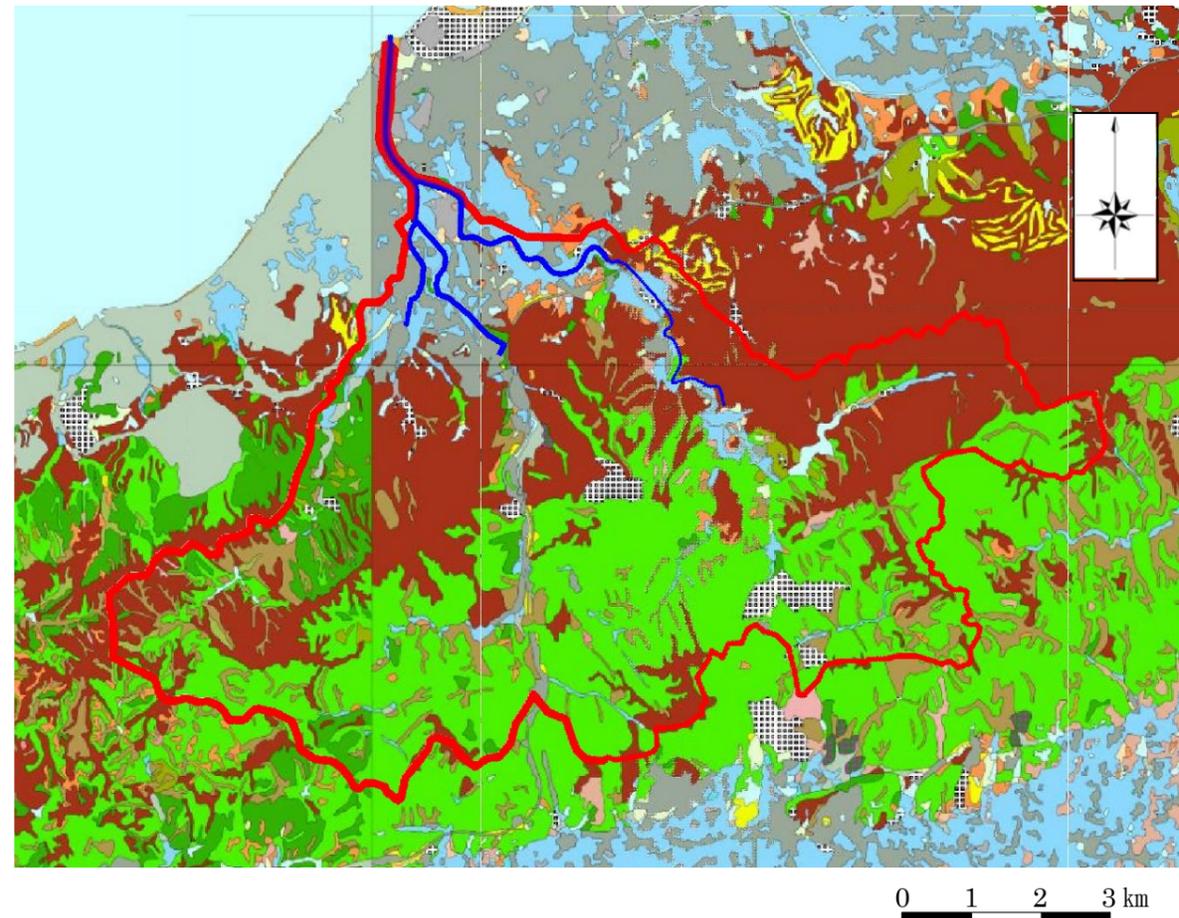
底生生物は、57科127種確認されており、大阪府レッドリスト2014で準絶滅危惧に指定されているヒラテテナガエビが確認されています。そのほか、カワニナ、ゲンジボタルなどが確認されています。

表-1.3 確認された主な底生生物

No.	綱名	目名	科名	和名	男里川			金熊寺川			重要種			(※)外来種
					男男岸1	男金岸1	男金岸2	男男岸1	男金岸1	男金岸2	環境省	大阪府	重要種	
1	普通海綿綱	ザラカイメン目	ダンスイカイメン科	ヨワカイメン										
2	渦虫綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	○	○	○							
3	渦虫綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカナミウズムシ	○									国外
4	有針綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	Prostoma属	○	○	○							
5	腹足綱	盤足目	カワニナ科	カワニナ		○	○							
6	腹足綱	基眼目	カワコザラガイ科	カワコザラガイ		○	○							
7	腹足綱	基眼目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ		○	○							
8	腹足綱	基眼目	サカマキガイ科	サカマキガイ	○	○	○							国外
9	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	Corbicula属	○	○	○							
10	ミミズ綱	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ	○	○	○							
11	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	Chaetogaster属	○	○	○							
12	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	Dero属	○	○	○							
13	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	ミツゲミズミミズ	○	○	○							
14	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	Nais属	○	○	○							
15	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	クロオビミズミミズ	○	○	○							
16	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	Pristina属	○	○	○							
17	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	ヨゴレミズミミズ	○	○	○							
18	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	ミズミズ科	○	○	○							
17	ヒル綱	無吻蛭目	イシビル科	イシビル科	○	○	○							
18	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	○	○	○							国外
19	軟甲綱	ヨコエビ目	ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ	○	○	○							
20	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	○	○	○							
21	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ミズヌマエビ	○	○	○							
22	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	Neocaridina属	○	○	○							
23	軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	ヒラテテナガエビ		○	○							準絶
24	軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	スズエビ		○	○							
25	軟甲綱	エビ目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		○	○							要注
26	軟甲綱	エビ目	サワガニ科	サワガニ		○	○							
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ミツオミジカオフトバコカゲロウ	○	○	○							
28	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ミジカオフトバコカゲロウ	○	○	○							
29	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ	○	○	○							
30	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ	○	○	○							
31	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ウデマカリコカゲロウ	○	○	○							
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	サホコカゲロウ	○	○	○							
33	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタモンコカゲロウ	○	○	○							
34	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ	○	○	○							
35	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	Cloeon属	○	○	○							
36	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ウスイロフトヒゲコカゲロウ	○	○	○							
37	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	○	○	○							
38	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	Ecdyonurus属	○	○	○							
39	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	ウエノヒラタカゲロウ	○	○	○							
40	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	ナミヒラタカゲロウ	○	○	○							
41	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	エルモンヒラタカゲロウ	○	○	○							
42	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	キョウトキハダヒラタカゲロウ	○	○	○							
43	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	チラカゲロウ科	チラカゲロウ	○	○	○							
44	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	トビイロカゲロウ科	ヒメトビイロカゲロウ	○	○	○							
45	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	○	○	○							
46	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	モンカゲロウ科	モンカゲロウ	○	○	○							
47	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	○	○	○							
48	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	○	○	○							
49	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	Cincticostella属	○	○	○							
50	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオマダラカゲロウ	○	○	○							
51	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオマダラカゲロウ	○	○	○							
52	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	シリナガマダラカゲロウ	○	○	○							
53	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	○	○	○							
54	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ	○	○	○							
55	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメシロカゲロウ科	Caenis属	○	○	○							
56	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	カワトンボ科	Calopteryx属	○	○	○							
57	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ	○	○	○							
58	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	ヤンマ科	コシボソヤンマ	○	○	○							
59	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	ヤマサナエ	○	○	○							
60	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	ダビドサナエ	○	○	○							
61	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	Davidius属	○	○	○							
62	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	オナガサナエ	○	○	○							
63	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	コオニヤンマ	○	○	○							
64	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	オジロサナエ	○	○	○							

No.	綱名	目名	科名	和名	男里川			金熊寺川			重要種			(※)外来種
					男男岸1	男金岸1	男金岸2	男男岸1	男金岸1	男金岸2	環境省	大阪府	重要種	
61	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	エゾトンボ科	コヤマトンボ										
62	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	オナシカワゲラ科	Amphinemura属										
63	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	オナシカワゲラ科	Nemoura属										
64	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	カワゲラ科	Neoperla属										
65	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ミズムシ科	ハイイロチビミズムシ		○	○							
66	昆虫綱	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ										
67	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ	○	○	○							
68	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	Cheumatopsyche属	○	○	○							
69	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	オオヤマシマトビケラ	○	○	○							
70	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ	○	○	○							
71	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	Hydropsyche属	○	○	○							
72	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	Psychomyia属	○	○	○							
73	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ										
74	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ヒメトビケラ科	Hydroptila属	○	○	○							
75	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ	○	○	○							
76	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ナガレトビケラ科	Rhyacophila属	○	○	○							
77	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	アシエダトビケラ科	Anisocentropus属	○	○	○							
78	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○	○	○							
79	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	カクツツトビケラ科	Lepidostoma属	○	○	○							
80	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ヒゲナガトビケラ科	Mystacides属	○	○	○							
81	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	Antocha属										
82	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	Tipula属	○	○	○							
83	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	チョウバエ科	チョウバエ科	○	○	○							
84	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ヌカカ科	ヌカカ科	○	○	○							
85	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Brillia属	○	○	○							
86	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Cardiocladius属	○	○	○							
87	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Chironomus属	○	○	○							
88	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Corynoneura属	○	○	○							
89	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Cricotopus属	○	○	○							
90	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Cryptochironomus属	○	○	○							
91	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Diplocladius属	○	○	○							
92	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Eukiefferiella属	○	○	○							
93	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Microtendipes属	○	○	○							
94	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Orthocladus属	○	○	○							
95	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Pagastia属	○	○	○							
96	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Parakiefferiella属	○	○	○							
97	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Parametriocnemus属	○	○	○							
98	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Paratendipes属	○	○	○							
99	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Polypedilum属	○	○	○							
100	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Potthastia属	○	○	○							
101	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Rheocricotopus属	○	○	○							
102	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Rheotanytarsus属	○	○	○							
103	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Symptothastia属	○	○	○							
104	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Tanytarsus属	○	○	○							
105	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Thienemanniella属	○	○	○							
106	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Tvetenia属	○	○	○							
107	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	モンユスリカ亜科	○	○	○							
108	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	ユスリカ亜科	○	○	○							
109	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	ユスリカ亜科	○	○	○							
110	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	ユスリカ亜科	○	○	○							

③植生



130106 シラキ-ブナ群集	320200 ヤナギ低木群落	541000 その他糖林
220102 クリ-ミズナラ群集	400100 シイ・カシ二次林	550000 竹林
250100 ササ群落	400600 ウバメガシ二次林	560100 ゴルフ場・芝地
250200 ススキ群団	410105 アベマキ-コナラ群集	560200 牧草地
260000 伐採跡地群落	410700 アカメガシワ-カラスザンショウ群落	570100 路傍・空地雑草群落
270100 シラカシ群落	420102 モチツツジ-アカマツ群集	570101 放棄畑雑草群落
270200 アラカシ群落	440200 クズ群落	570200 果樹園
270800 シリブカガシ群落	450100 ススキ群団	570300 畑雑草群落
271102 カナメモチ-コジイ群集	460000 伐採跡地群落	570400 水田雑草群落
271205 ミミズバイ-スダジイ群集	470400 ヨシクラス	570500 放棄水田雑草群落
271700 ホルトノキ群落	470500 河川敷砂礫地植生	580100 市街地
280101 シキミ-モミ群集	470501 ツルヨシ群集	580101 緑の多い住宅地
290200 クロマツ群落	470502 オギ群集	580200 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
300102 イロハモミジ-ケヤキ群集	470600 ヒルムシロクラス	580300 工場地帯
300104 ケヤキ-ムクノキ群集	540100 スギ・ヒノキ・サワラ糖林	580400 造成地
310100 ハンノキ群落	540200 アカマツ糖林	580600 開放水域
320100 ヤナギ高木群落	540300 クロマツ糖林	580700 自然裸地

図-1.7 植生図

出典：自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター（平成21年調査）

④男里川河口

また、男里川河口には大阪府内唯一の天然干潟が形成されており、野鳥や海の生物など貴重な生物の生息地となっています。

表-1.4 男里川河口で確認される生物

No.	分類	和名	貴重種
			R L 大阪府
1	鳥類	ズグロカモメ	準絶
2		イカルチドリ	絶危Ⅱ
3		メダイチドリ	絶危Ⅱ
4		ソリハシシギ	絶危Ⅱ
5		キアシシギ	絶危Ⅰ
6		キョウジョシギ	絶危Ⅱ
7		トウネン	準絶
8	底生生物	ハクセンシオマネキ	
9		ユビアカベンケイガニ	準絶
10		アシハラガニ	
11		ヤマトオサガニ	
12		シオマネキ	絶危Ⅱ
13		ウモレベンケイガニ	絶危Ⅱ
14		トビハゼ	絶危Ⅰ
15		フトヘナタリ	準絶
16		クリイロカワザンショウ	準絶
17		ホソウミニナ	絶危Ⅰ
18		イボウミニナ	不足
19		ヘナタリ	絶危Ⅰ
20		タケノコカワニナ	絶危Ⅰ
21	植物群落	ハマサジ	絶危Ⅰ
22		ハママツナ	絶危Ⅰ
23		ナガミノオニシバ	絶危Ⅰ

出典：大阪の生物多様性ホットスポット（平成28年1月）
大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課



図-1.8 男里川河口で確認される生物

出典：大阪の生物多様性ホットスポット（平成28年1月）
大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課

(2) 社会環境特性

1) 人口

平成27年10月時点で、流域市の人口は、泉南市が約6.3万人、阪南市が約5.4万人、泉佐野市が約10.1万人となっています。また、世帯数は、泉南市が約2.3万世帯、阪南市が約2.1万世帯、泉佐野市が約4.1万世帯となっています。平成7年頃から平成18年頃までは、関西国際空港や大阪湾ベイエリアの開発に伴う住宅開発の影響もあって人口は増加傾向にありましたが、近年はやや減少傾向です。

2) 産業

泉南市では、平成22年国勢調査時点の就業者人口は、卸売り、飲食店、サービス業等の第3次産業が71.1%、製造業等の第2次産業が26.1%、農業等の第1次産業が2.8%となっています。同様に、阪南市では、第3次産業が74.2%、第2次産業が24.2%、第1次産業が1.6%、泉佐野市では、第3次産業が72.5%、第2次産業が24.8%を占め、第1次産業は2.7%となっています。

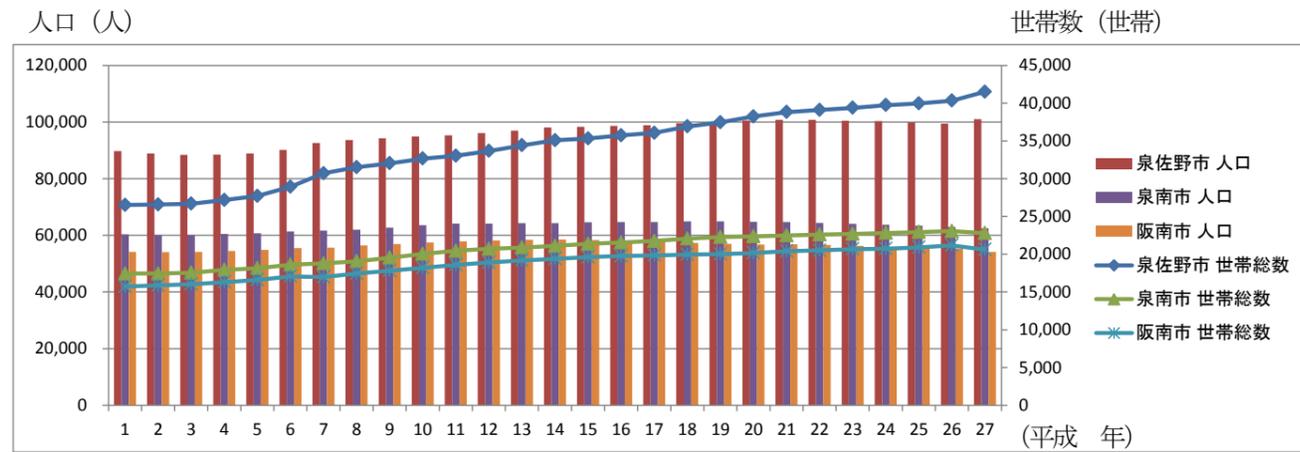


図1-9 流域市の人口の推移

出典：大阪府統計年鑑等(平成27年は国勢調査速報値)

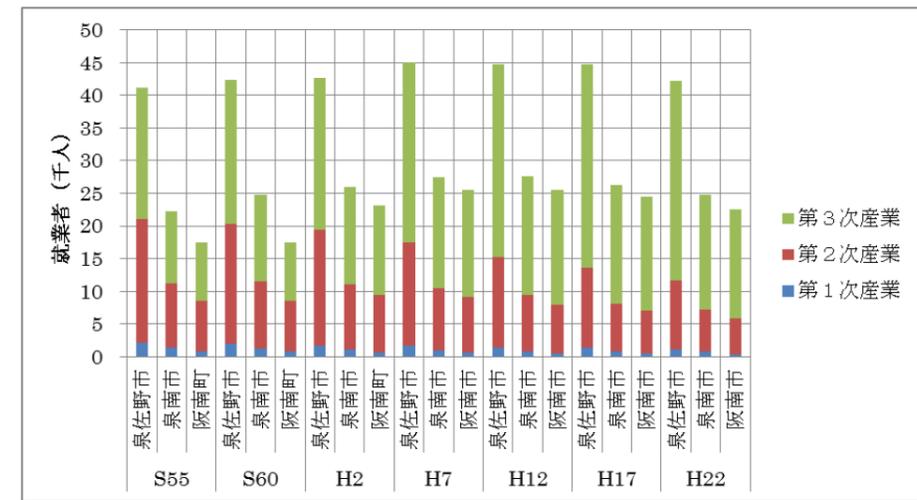


図-1.12 産業別就業者割合推移

出典：大阪府統計年鑑
「市町村、労働力状態、産業(大分類)別15歳以上就業者数」

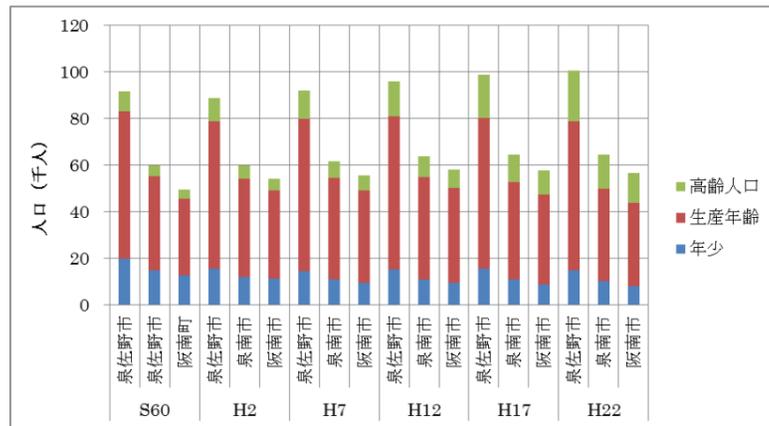


図-1.10 年齢別人口の推移

出典：年齢別人口の推移(国勢調査)

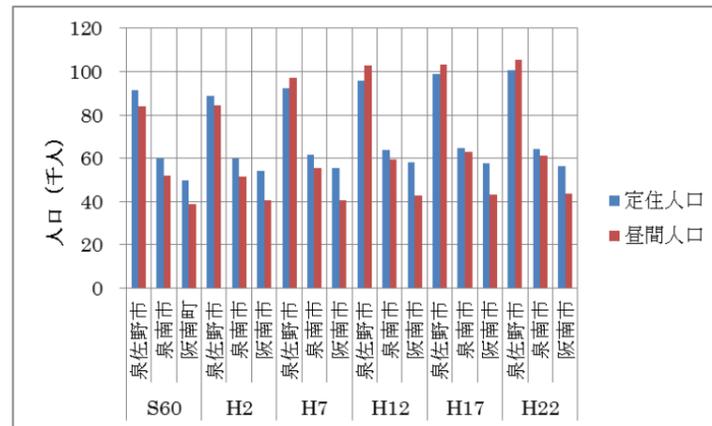


図-1.11 常人口と昼間人口

出典：常住人口と昼間人口(国勢調査)

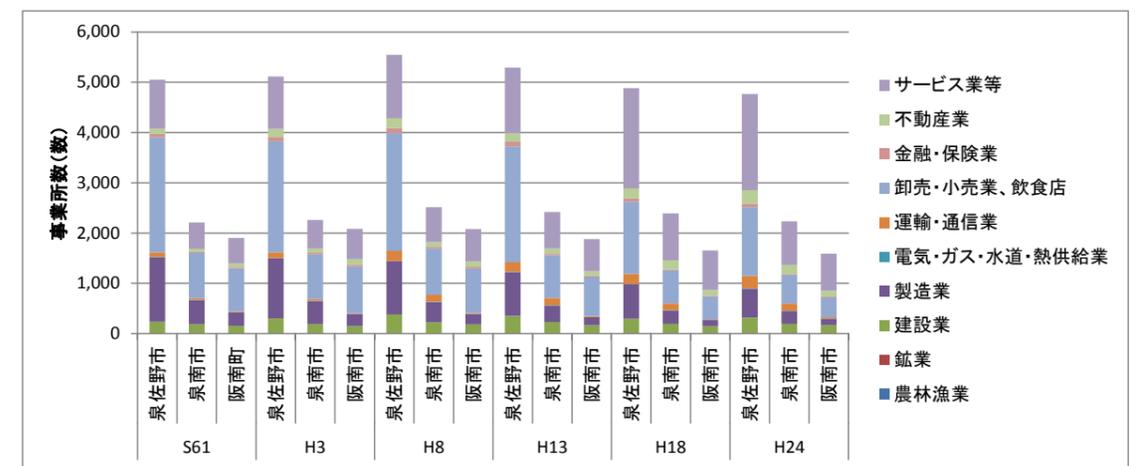
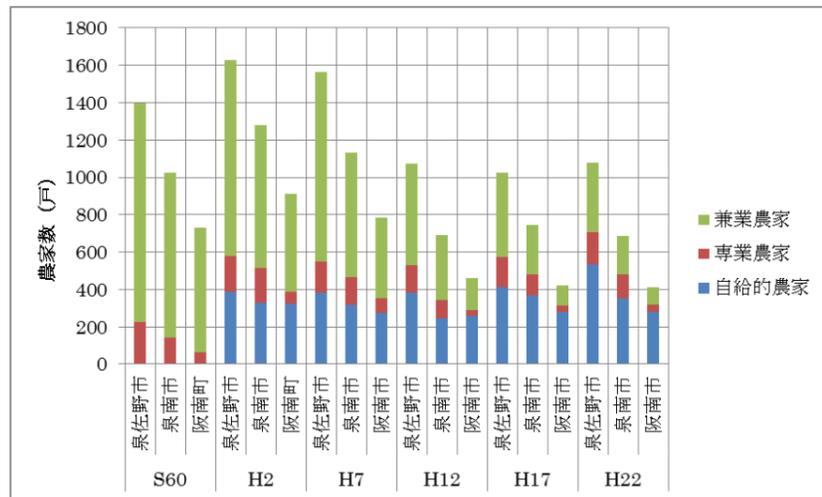


図-1.13 事業所・従業員数の推移

出典：総務省統計局「事業所・企業統計調査」

①農業・林業

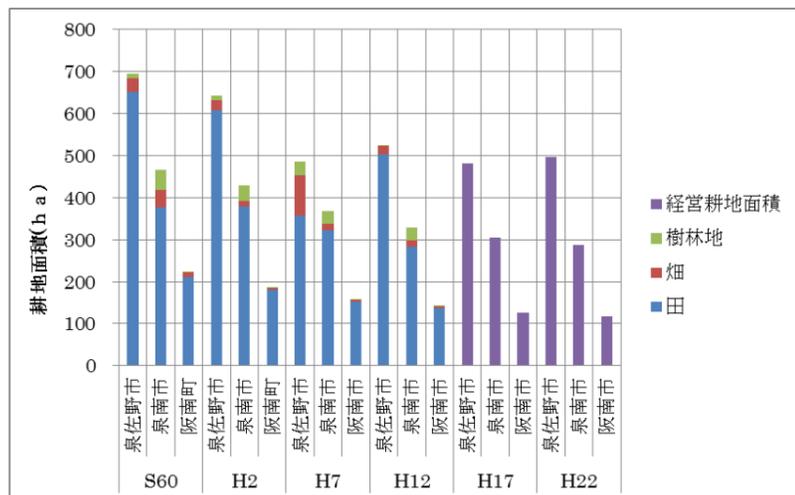
男里川の流域市では、伝統的に優れた栽培技術で生産され、全国にも誇れる農産物が多くあります。泉南市、泉佐野市で主に生産されている大阪ふき、泉州きゃべつ、泉州たまねぎ、泉州さといも、大阪ねぎ、泉州みずなす、紅ずいき、大阪えだまめは、「なにわ特産品」として選定されています。また泉南市、泉佐野市他が原産の泉州黄玉葱は、「なにわの伝統野菜」として認証されています。果実については、約200年の歴史がある温州みかんの栽培が盛んであり、男里川流域市では、泉南市で主に生産されています。



※「兼業農家」：世帯員のなかに兼業従事者が1人以上いる農家をいう。
 ※「自給的農家」：経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家をいう。

図-1.14 農家数の推移

出典：大阪府統計年鑑「市町村別、専業兼業別農家数及び経営耕地面積」



※「経営耕地面積」：農林業経営体が経営している耕地（田、樹園地、畑）の面積をいう。

図-1.15 耕地面積の推移

出典：大阪府統計年鑑「市町村別、専業兼業別農家数及び経営耕地面積」

②漁業

河口部に隣接する岡田漁港、田尻漁港では、イワシ類、タコ類、イカナゴ、スズキ類等の漁獲があり、いかなごのくぎ煮、アナゴ、泉だこが特産品となっています。

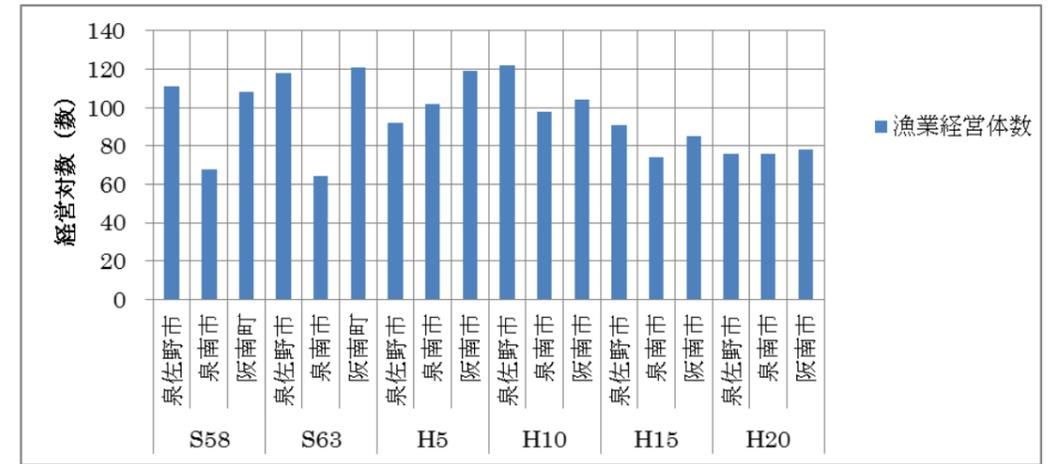


図-1.16 経営体数の推移 出典：農林水産省「漁業センサス」

③工業

工業については、繊維産業等が盛んです。泉南市ではペットボトルから再生された繊維を使ったエコ作業手袋、泉佐野市では全国シェアの約半数を占める泉州タオルが特産品となっています。

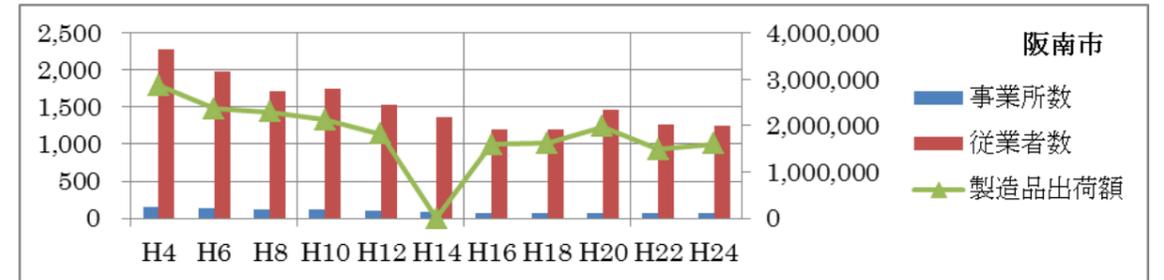
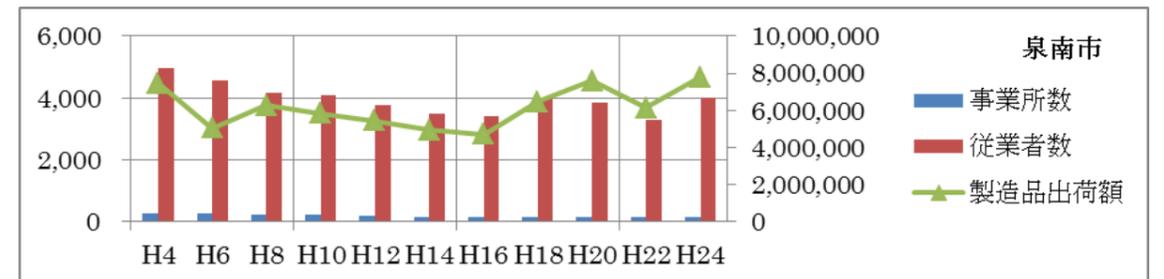
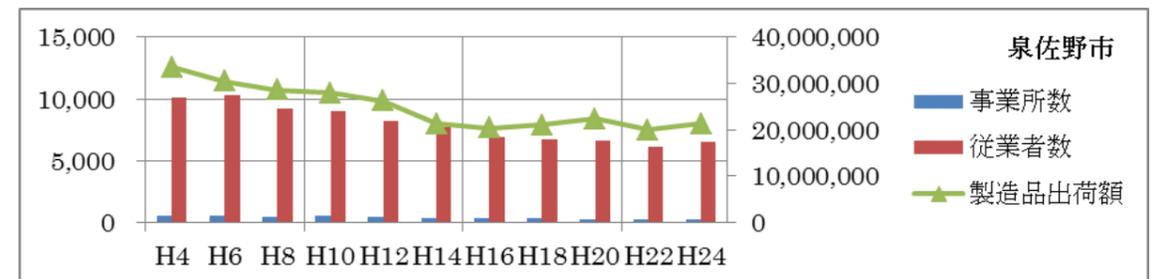


図-1.17 工業関連の事業所数、従業員数及び出荷額

出典：経済産業省「工業統計調査」

3) 土地利用

平成26年1月時点で、泉南市の土地利用は、宅地が約38%、農地(田及び畑)が約27%、山林が約16%、その他が約18%、阪南市の土地利用は、宅地が約43%、農地(田及び畑)が約20%、山林が約27%、その他が約10%、泉佐野市の土地利用は、宅地が約40%、農地(田及び畑)が約24%、山林が約18%、その他が約19%となっています。

流域内の土地利用は、阪和自動車道から上流域は山地で、豊かな自然が残されています。中流域及び下流域では市街化区域が大半を占めていますが、沿川では比較的田畑が広がっています。平成6年から平成22年への土地利用の変化については、流域市全体で見ると、田畑が減少し、宅地が増加している傾向にあります。また、都市計画法による市街化区域の指定状況は、町面積の14.3% (704ha) であり、用途地域は住居系が12.4%、商業系が0.2%、工業系が1.7%を占めています。

表-1.5 地目別面積表

地目	泉佐野市		泉南市		阪南市	
	地積 (m ²)	(%)	地積 (m ²)	(%)	地積 (m ²)	(%)
宅地	10,948,431	39.5	7,101,836	38.2	5,226,882	43.3
田	6,026,882	21.7	4,195,176	22.6	2,249,058	18.6
畑	590,888	2.1	892,894	4.8	195,052	1.6
山林	4,989,366	18.0	3,040,399	16.4	3,253,811	26.9
原野	11,540	0.0	131,120	0.7	115,171	1.0
雑種地	4,762,254	17.2	3,065,637	16.5	840,210	7.0
鉄軌道	422,547	1.5	167,722	0.9	194,942	1.6
計	27,751,908	100.0	18,594,784	100.0	12,075,126	100.0

土地利用図	図例
一般市街地	赤い点
商業業務地	赤い点
官公署	紫の点
工場地	青い点
集落地	オレンジの点
公園・緑地	緑色の点
運動場遊園地	緑色の点
学校(土地利用図)	緑色の点
社寺敷地・公開庭園	茶色の点
墓地	黒い点
田・休耕地	黄色い点
畑	黄色い点
山林	茶色の点
原野・牧野	赤い点
水面	水色の点
低湿地・荒蕪地	灰色の点
公共施設	赤い点
道路・鉄軌道敷	灰色の点
その他	オレンジの点

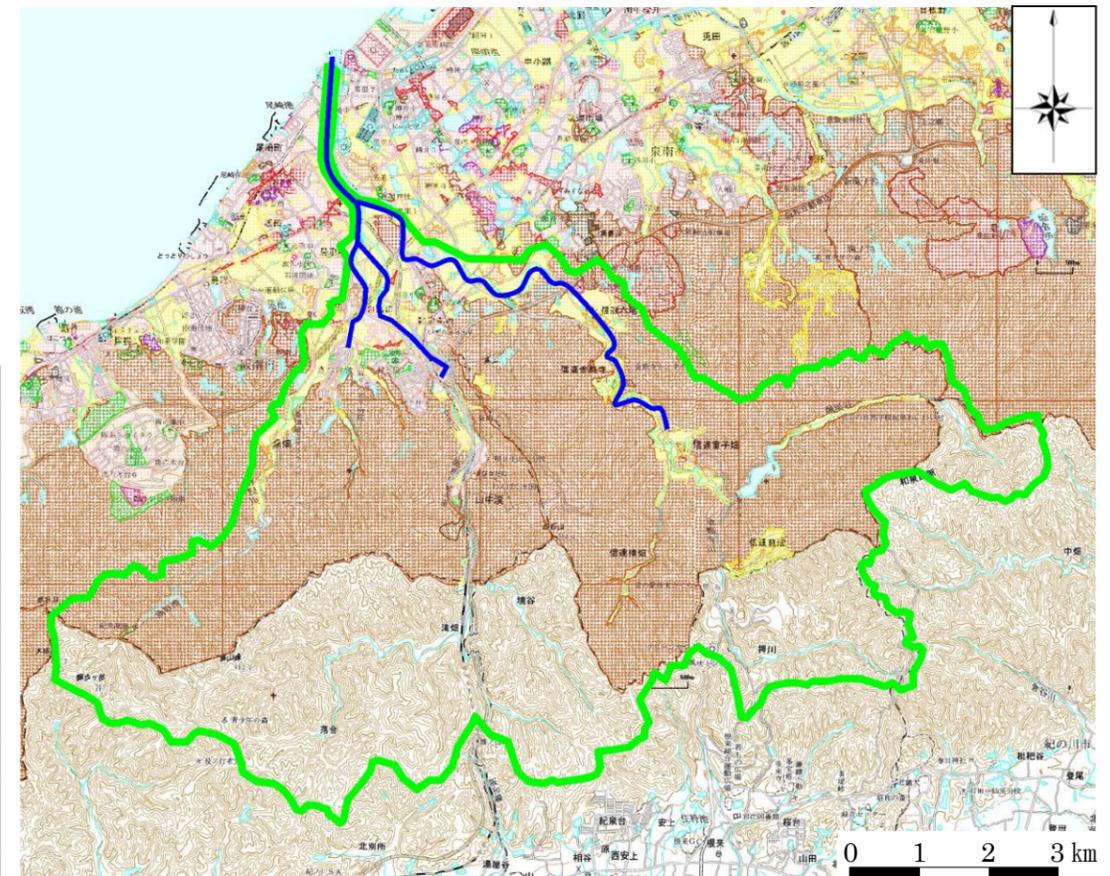


図-1.18 泉南市、阪南市、泉佐野市の土地利用図 (データ作成 平成22年)

出典：大阪府 地図情報システム

4) 歴史・文化・観光

男里川の周辺は、戦時中も大きな空襲を受けなかったため、多くの文化財があります。

男里遺跡は、縄文時代後期から中世の複合遺跡で、大阪府南部の泉南市男里・馬場・幡代に所在しています。男里右岸にあたり、約1^キ×1.3^キ四方の広がりを持つ遺跡です。昭和5年（1930）に遺物が発見されたことが契機となり、最初の調査が行われ、弥生土器や石器が確認されました。周辺の主要な遺跡としては、弥生時代では滑瀬遺跡（中期）・幡代遺跡・幡代南遺跡（前～中期）、古墳時代では天神の森遺跡（後期）、高田山古墳（後期）などが知られています。又、調査地から約1.5^キ離れて現存する林昌寺の境内からは、泉南地域唯一の銅鐸が発見されています。

また、岡中旧鎮守神社境内にある大楠は、根元の囲りは12メートル、高さ30メートル、枝がおおう地面は300平方メートル以上にもなる大木で、その樹齢は約800年といわれ、大阪府天然記念物として指定を受けています。

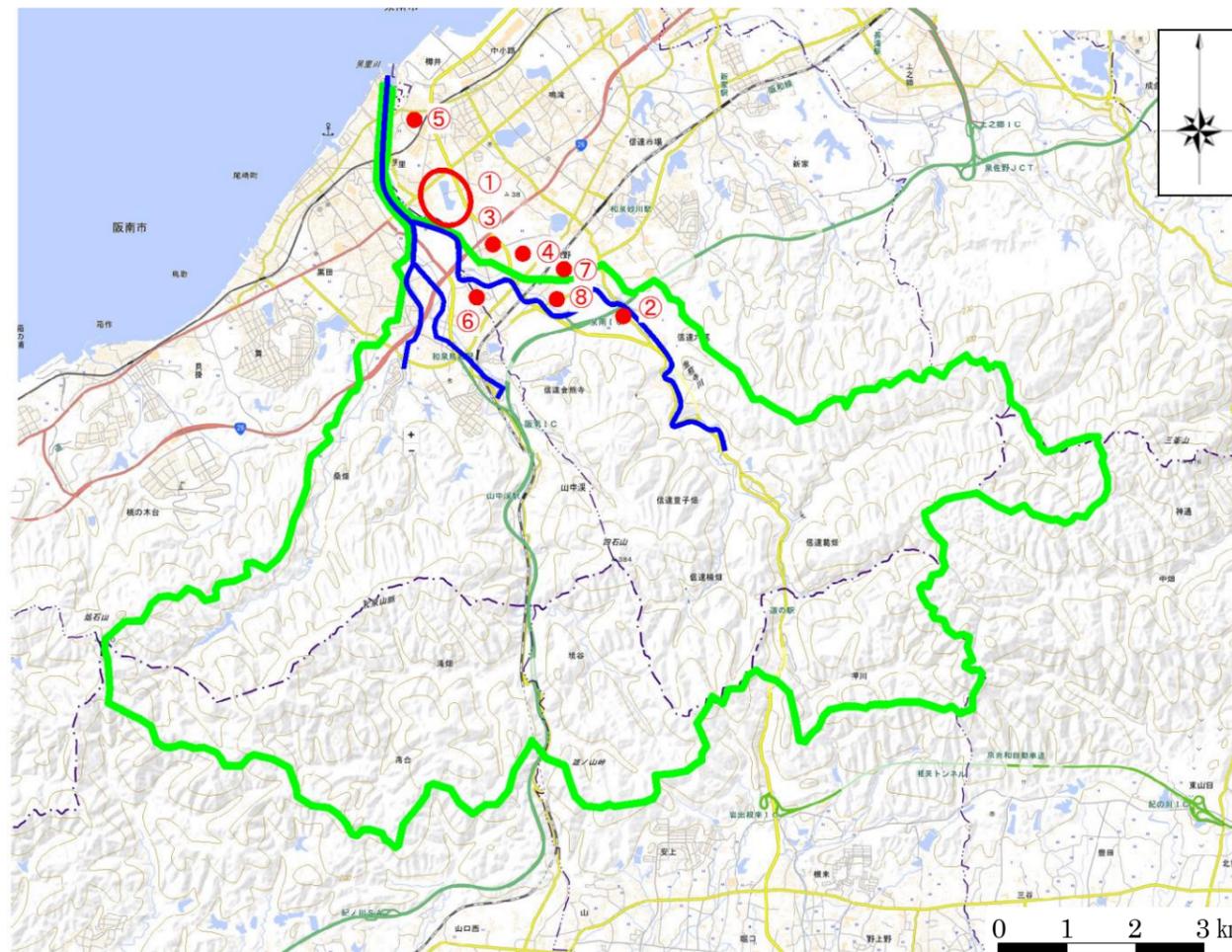


図-1.19 文化財位置図



男里遺跡



滑瀬遺跡



幡代遺跡



天神ノ森遺跡



高田山古墳群



林昌寺出土の銅鐸
※林昌寺銅鐸は大阪府立弥生文化博物館にて常設展示



岡中鎮守社のくす（左） マキ（右）



出典：泉南市HP、阪南市HP、大阪府HP

図-1.20 男里川流域の歴史、文化、観光施設

表-1.6 文化財リスト

名称	指定内容	場所
男里遺跡		泉南市 ①
滑瀬遺跡		泉南市 ②
幡代遺跡		泉南市 ③
幡代南遺跡		泉南市 ④
天神ノ森遺跡		泉南市 ⑤
高田山古墳群		泉南市・阪南市 ⑥
林昌寺出土の銅鐸		阪南市（林昌寺） ⑦
岡中鎮守社のくす	大阪府指定天然記念物	泉南市 ⑧
岡中鎮守社のマキ	大阪府指定天然記念物	泉南市 ⑧

5) 交通

流域内における交通は、大阪府と和歌山県を結ぶ形で鉄道や幹線道路が整備されています。鉄道は JR 阪和線、南海本線が並走し、幹線道路は阪和自動車道、国道 26 号（第二阪和国道）、関西空港自動車道といった交通網が基幹を成しています。

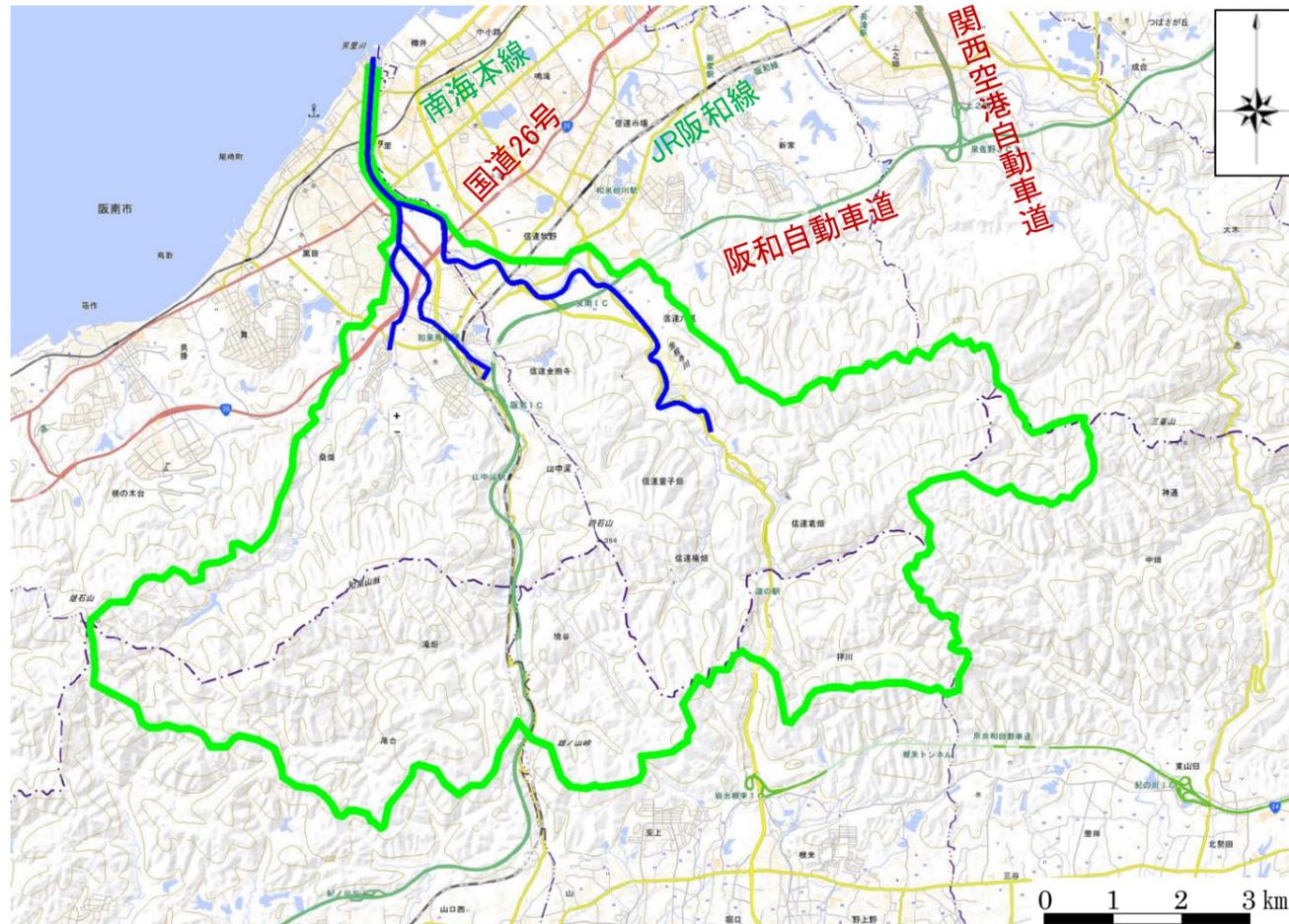


図-1.21 流域市の交通網図



男里川を横断する南海本線



金熊寺川を横断する JR 阪和線



男里川を横断する国道 26 号

図-1.22 男里川流域の主要交通

3. 河川の特徴

①男里川

男里川は、主に築堤形状であり、多くは市街地を流下しています。河口～金熊寺川合流点は川幅が90～110mと広く、高水敷を有する複断面構造となっています。金熊寺川合流点～山中川・菟砥川合流点は川幅が約40mの単断面構造となっています。河床勾配は1/300～1/250程度です。



【菟砥橋下流】



【男里川橋下流】



【男里川橋上流】



【国道26号下流】



図-1.23 男里川の河川特性

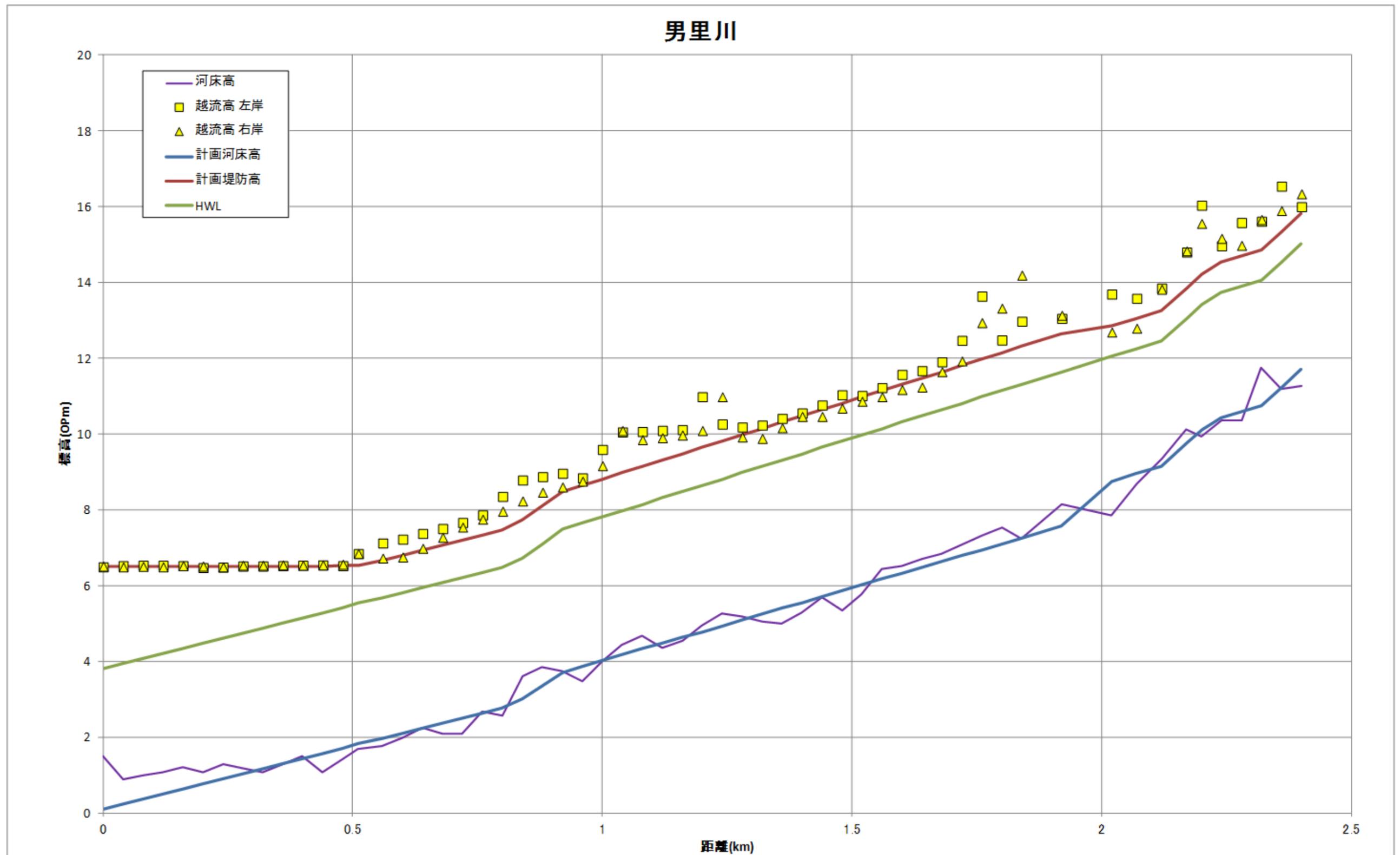


図-1.24 男里川縦断面

出典：二級河川男里川外河川氾濫解析検討業務委託（平成 25 年 2 月）に加筆

②金熊寺川

金熊寺川は、主に掘込形状であり、多くは農地を流下しています。川幅が10~40mの単断面構造となっています。河床勾配は1/160~1/50程度です。



【男里川合流点上流】



【幡代橋下流】



【紀州街道上流】



【阪和自動車道上流】

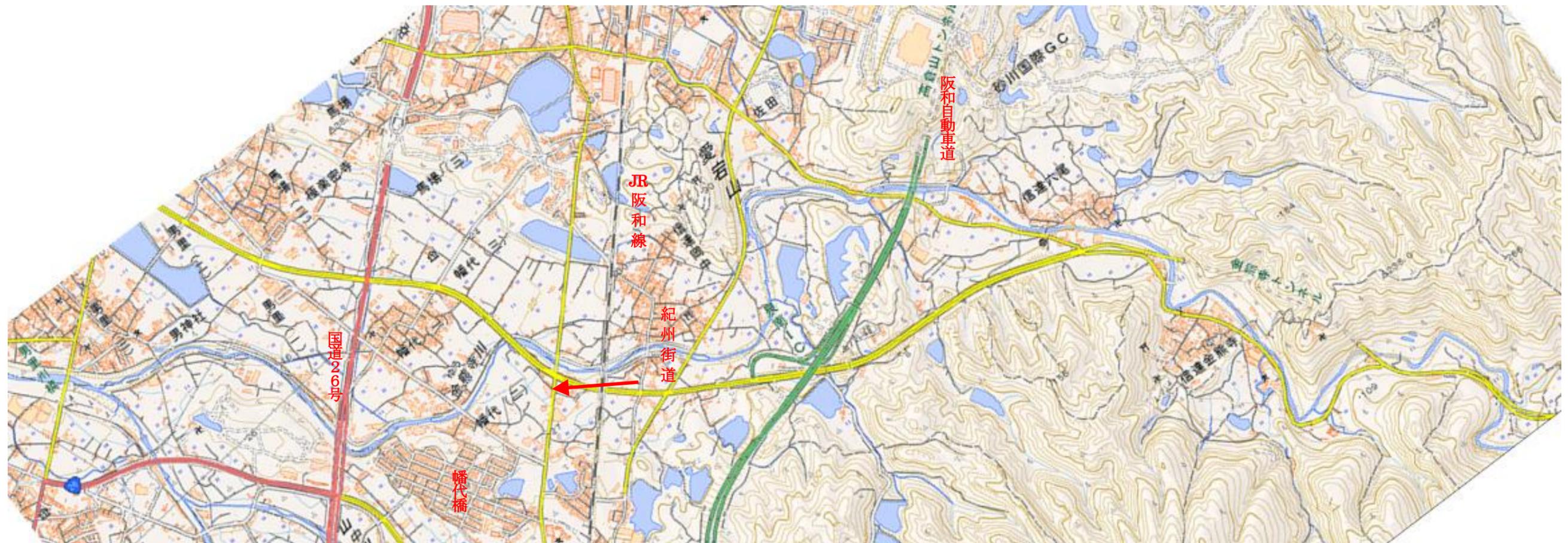


図-1.25 金熊寺川の河川特性

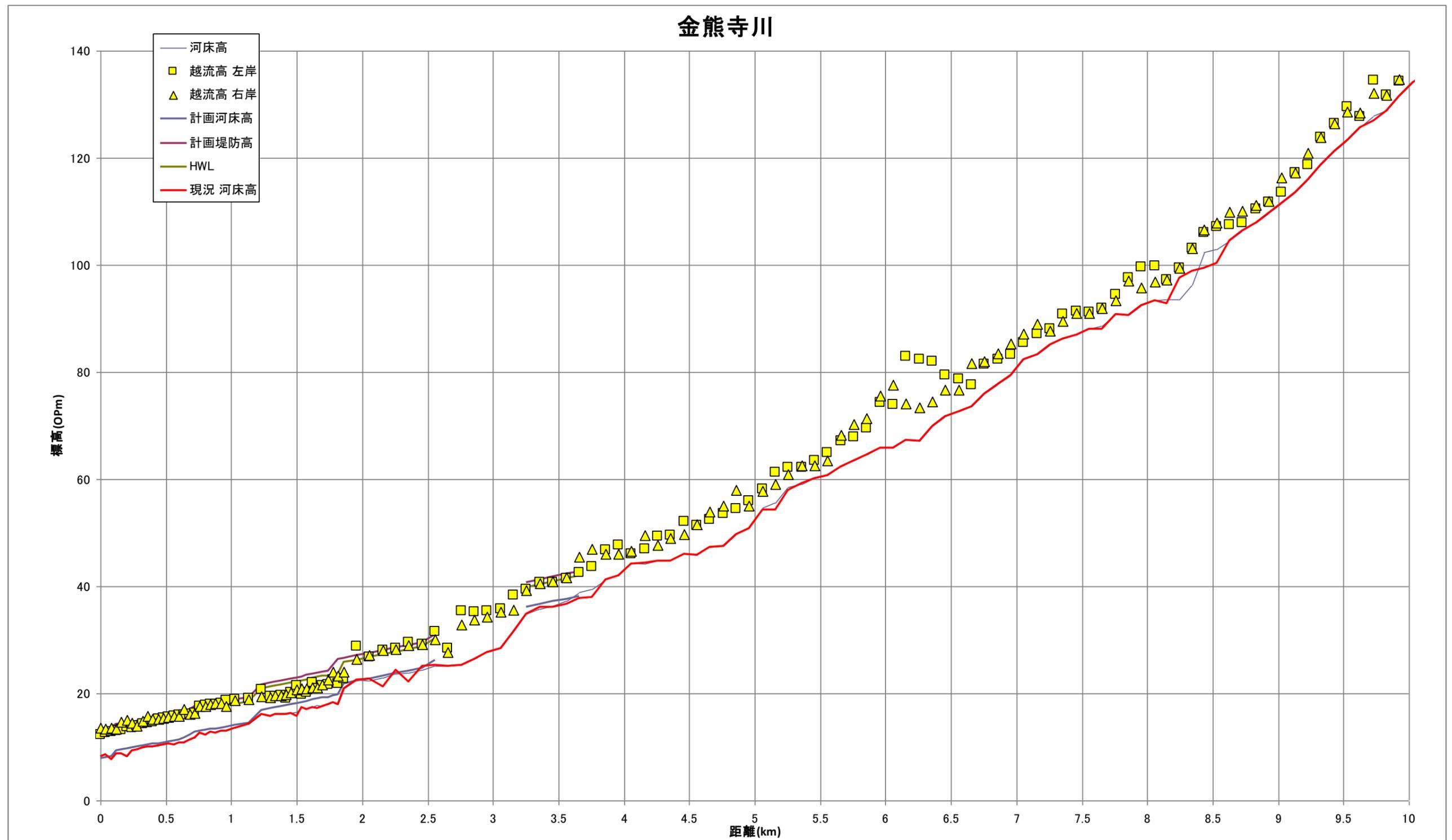


図-1.26 金熊寺川縦断面図

出典：二級河川男里川外河川氾濫解析検討業務委託（平成25年2月）に加筆

③山中川・菟砥川

山中川は、主に築堤形状であり、多くは農地を流下しています。川幅が10～25mの単断面構造となっています。河床勾配は1/130～1/90程度です。
菟砥川は、掘込形状であり、農地と宅地の混在地を流下しています。川幅が20～25mの単断面構造となっています。河床勾配は1/120程度です。



【山中川 山中橋上流】



【菟砥川 自然橋下流】



【菟砥川 下亀橋下流】

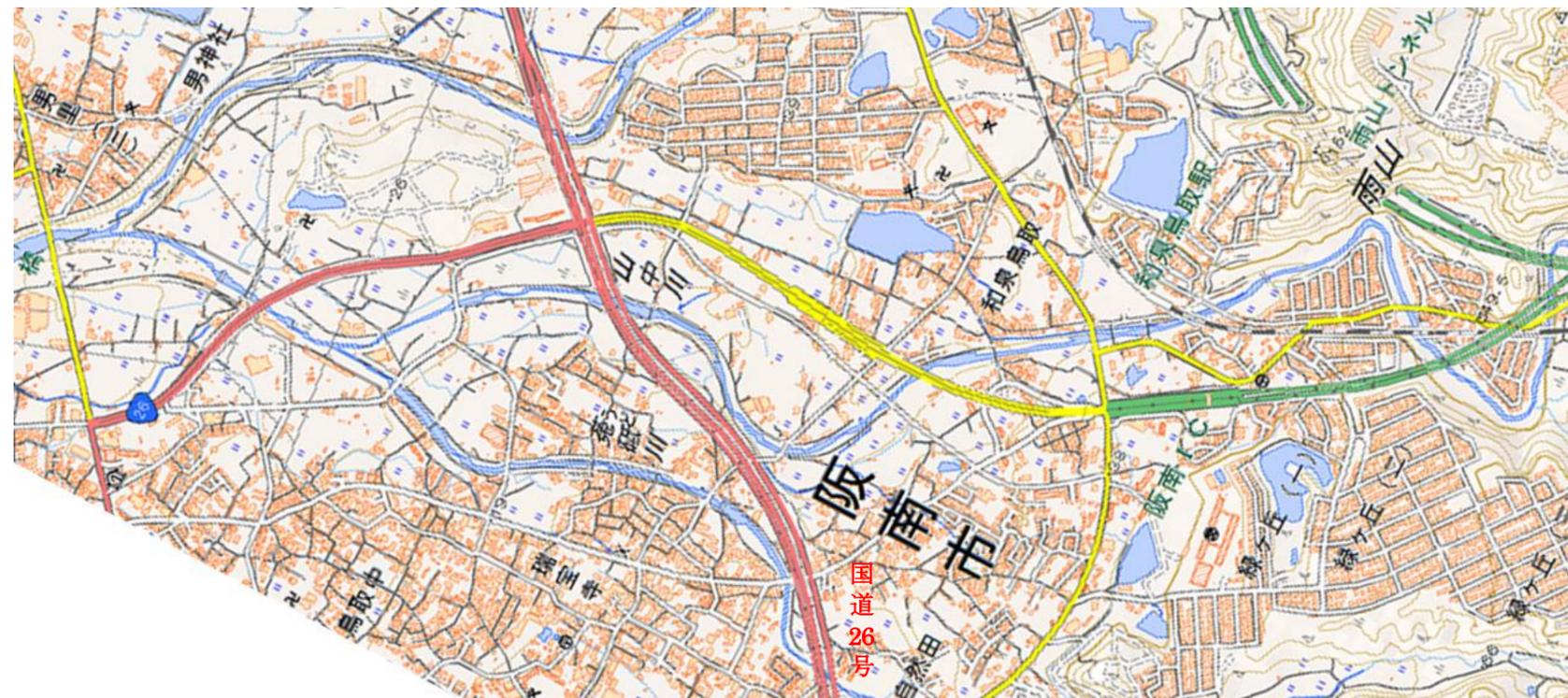


図-1.27 山中川、菟砥川の河川特性

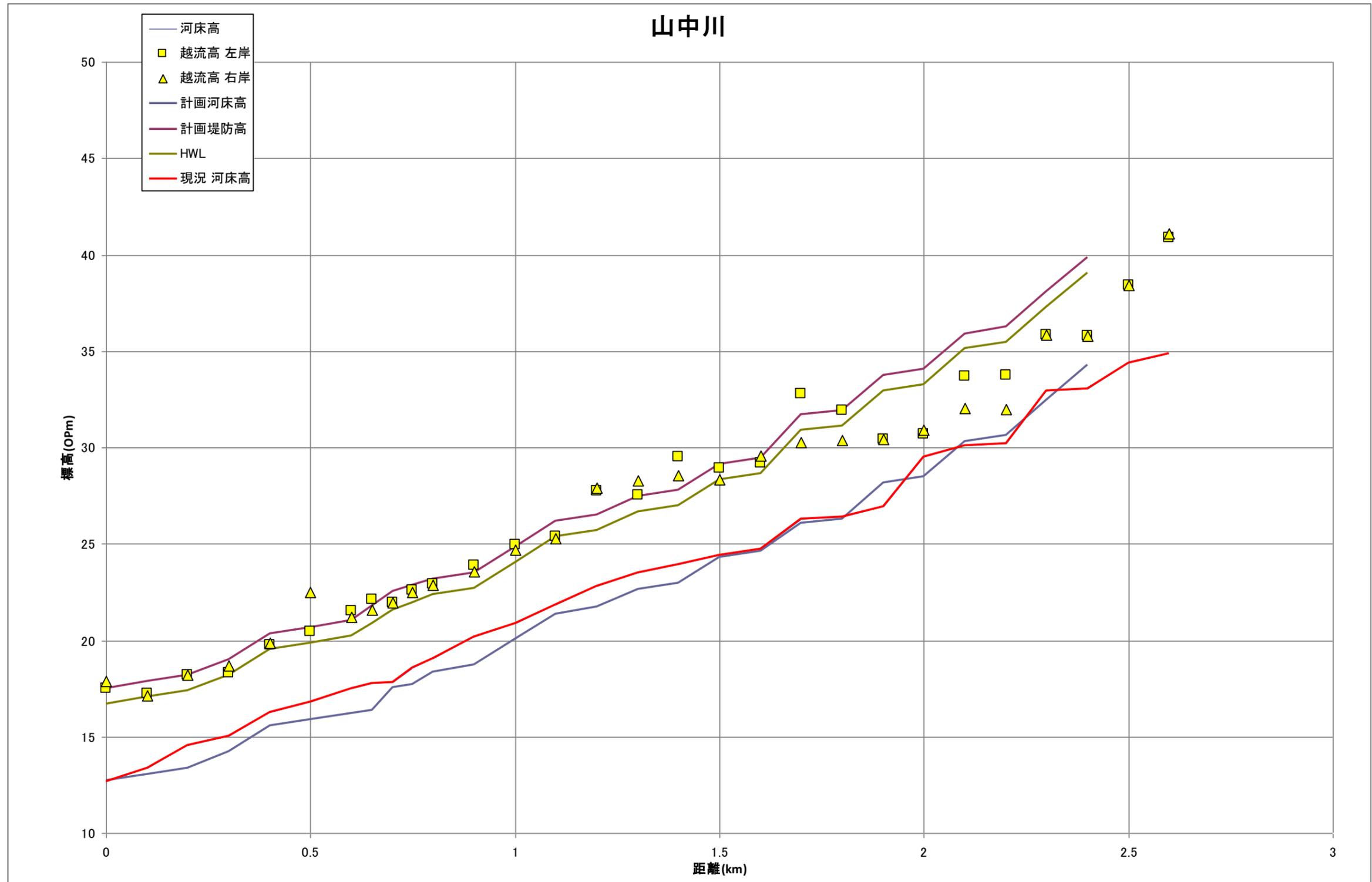


図-1.28 山中川縦断面図

出典：二級河川男里川外河川氾濫解析検討業務委託（平成 25 年 2 月）に加筆

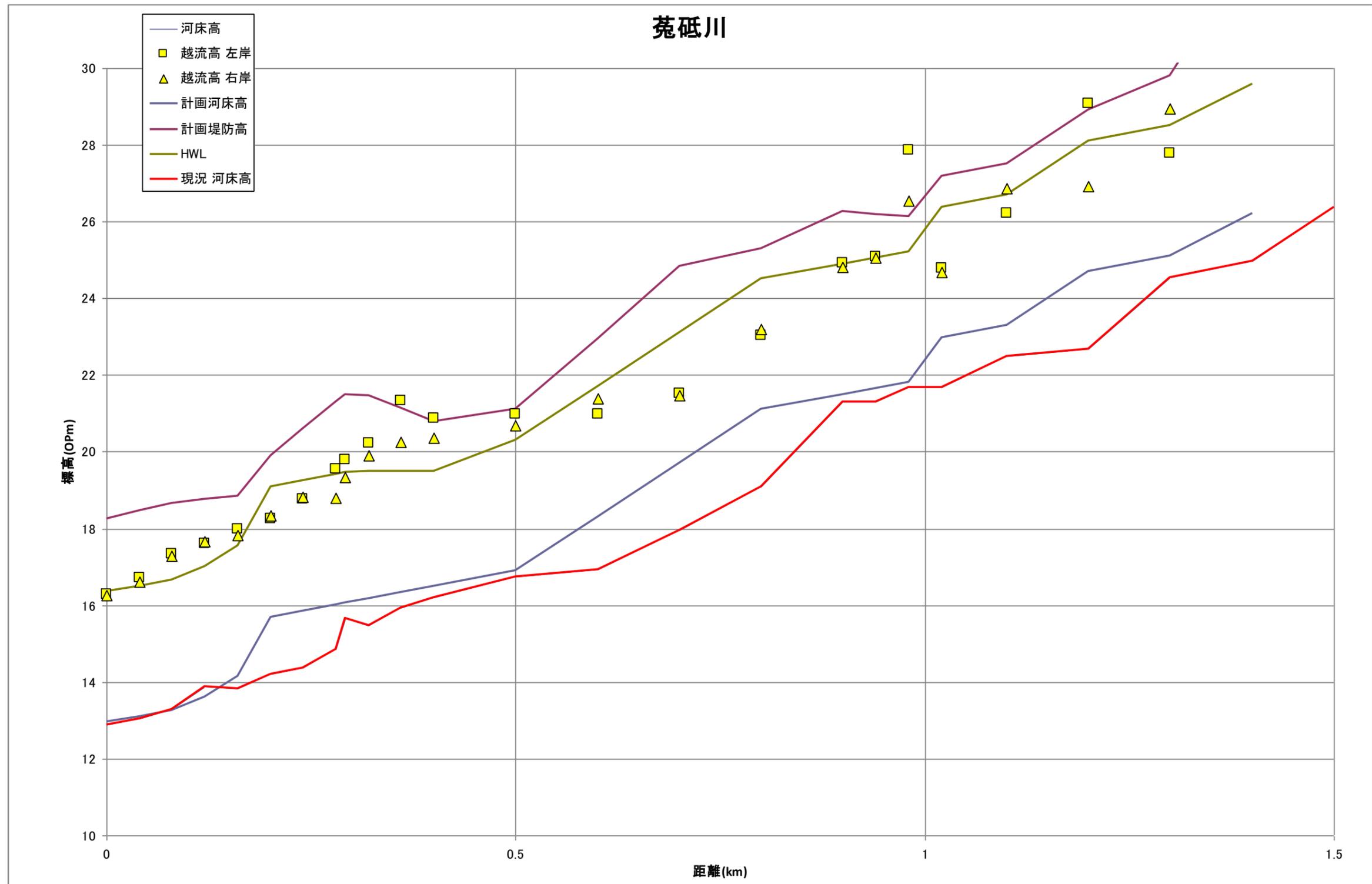


図-1.29 菟砥川縦断面図

出典：二級河川男里川外河川氾濫解析検討業務委託（平成25年2月）に加筆